



農業の最新技術・取組事例を一堂に展示 「アグロ・イノベーション2018」が開催！

アグロ・イノベーション2018

- 期日：11月20日(火)～22日(木)
- 場所：東京ビッグサイト西1・2ホール
- 主催：(一社)日本能率協会
- 内容：農産物の生産、収穫、加工、包装、流通における専門展示会

■農業に関する新しい取組が多数紹介！

農業に関する最新技術が一堂に会する専門展示会「アグロ・イノベーション2018」が、11月20日(火)～22日(木)の3日間にかけて、東京ビッグサイトで開催されました。展示会には、3日間で7,759人が来場し、同時開催されたアグリビジネス創出フェア等と合わせると29,269名の農業関係者が来場し、賑わいを見せていました。

会場には様々なブースが出展されており、シャープライフサイエンス(株)からは土壌成分一括抽出用試薬液の注入から14分程度で簡易に土壌分析が行える「土壌分析装置」の展示が行われていました。この装置では、窒素、リン酸、カリ等の主要6成分の分析を短時間で簡易に行うことができるほか、付属のソフトウェアをPCにインストールすることで施肥設計も行うことができますというものでした。

最新技術の展示以外にも、渡部パイプ(株)が展開する農家が互いに農作業を助け合うためのマッチングサービス「アグリウィズ」や、スマート農業に取り組むIT企業の(株)OPTiMが展開する、ほ場スキャンやピンポイントの農薬散布などを行うドローンの無料貸出や音声入力等による農作業記録・GAP取得支援サービスなどが出展されていました。

渡部パイプ(株)の展開する「アグリウィズ」や(株)OPTiMの推進するスマート農業は、アプローチの方法は異なりますが、どちらも今後人手不足の深刻化が懸念される農業において、その対策の一つの可能性を示すもののように感じました。



土壌分析装置



渡部パイプ(株)のブース

■産学の研究機関が 最新の研究成果を一堂に展示！

当日は、隣接する会場で、農林水産省が主催し国や各県の試験場、大学といった試験研究機関が最新の研究成果の展示等を行う技術交流展示会「アグリビジネス創出フェア」も開催されていました。

様々なブースが出展されるなか、栃木県からは現地で導入が進んでいる梨の盛土式根圏制御栽培に関する展示が行われ、実際に根圏制御栽培を行っている梨のサンプルの展示が行われ、来場者の注目を集めていました。また、センリョウについて日本一の生産量を誇る茨城県からは、STS前処理等によるセンリョウの実落ち抑制試験の結果について、実際に処理をしたものと無処理のものを展示して説明を行っていました(写真左がSTS未処理、右がSTS処理)。

これらの他にも、全国から各県の試験場や大学が研究成果の展示・説明を行うとともに、出展を行っている他の研究機関や来場した農業関係者と意見交換や、ブース来場者を対象にしたアンケート調査などを行うことで積極的な情報収集を行っていました。



栃木県試験場による
梨の根圏制御栽培の展示



茨城県試験場によるセンリョウ
の実落ち抑制試験の展示